

2013年11月20日掲載・配信

考える手がかり

毎日お肉八十gで高まるQOL?!

ある仕事の間で聞いた話とNHKの「クローズアップ現代」でとりあげていた話を重ねると、適量のお肉で健やかな老後ということになりそうです。事務所に訪ねてきた知人にこの話をしたら、「それはいいこと聞いた!」と喜ぶので、「ただし、適量です、適量:」とメタボ

な体を案じて念押し。十年前になります。二〇〇三年十二月号「日経サイエンス」の特集「脳力増強の科学」に書いてありました、脳の働きを高めるのに特別なことは何もいらぬ、ただ、「適切な食事、十分な睡眠、そして適度な運動」さえ保てばよいと。しかし、簡単なことほど実践は難しいのが常、ですね。

「堀田善衛」。このところ、この人のことを思い出します。1998年9月5日に他界、新聞には『日本の良識、逝く』と書かれた作家です。もし生きていたら、今の世の中や政治の流れをどう見て、語り、書いたでしょう。

日経の1998年9月6日の新聞には、『人間の実存描いた国際派 生死・動乱の世 見つめる』。9月5日の朝日には、『「世界人」の時代を期待 事象の奥に鋭い批評眼』、読売には、『鋭い国際感覚で文明を見つめ続けた戦後派を代表する作家』。

各紙に惜別の言葉がたくさん載りましたが、その中に「宮崎駿」の名があったのは、うれしい驚きでした。いわく、『仕事などで迷ったとき、堀田さんの著作で考える手がかりを得た』。

没後10年の2008年秋、横浜の神奈川近代文学館が企画した大規模な回顧展にはスタジオジブリが協力、『堀田善衛展 スタジオジブリが描く乱世』には後ろ髪をひか

れるほど、立ち去り難かった。

まさに“垣根を超えた”グローバルなもの考え方と行動様式、そして何よりかけがえない品性が、読み手の探しものに応じて手がかりを与える。そんなモノサシのような先輩が、今は少ない。

そう思ったなら自分がそのようになりなさい、と「堀田善衛」が語りかけてきそうですが、そのためにはまだまだ“精進”が足りませんが。心がけはもっているつもりですが。

『微小な変化が時の流れにそって正常に展開していくうちに重大な結果となりうる』、“指数関数的不安定性”の解説文です。今の社会の変化が10年、20年後にどんな結果をもたらすでしょう。

「堀田善衛」の名前を知らない人も今は多いようですが、温かみのある直観に目を開かされ、励まされ、考えさせられます。今ふたび読まれていい作家ではないかと思う今日この頃です。

秋は過去を、春は未来を

暦の上では冬に入っていますが、12月に入る前、晩秋は、日常の慌しさの中でもちょっと立ちどまり、ものごとを鳥瞰するにはよい季節です。秋には“過去”の意味がありますが、光の加減や景色、空気感が、愁いを含み、過去をふりかえるように仕向けるのかもしれない。

一方、春は光の明るさを増し、景色も華やいで、おのずと未来に思考が向く。でもどちらにしても、全体を鳥瞰することになるのは同じです。12月に入る前にまずはこの一年をふり返り、来る年とはるか遠い未来に思いを馳せる。来年の計が浮かんでくるに違いありません。

LEE'S リーズ
<http://www.leeslee.com>
 〒530-0012
 大阪市北区芝田2丁目8-15
 北梅田ビル35号
 リー・ヤマネ・清実